

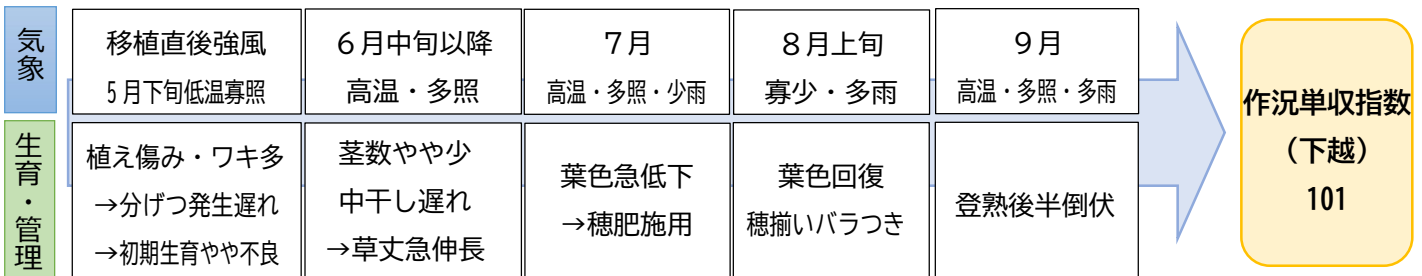
**気候変動を意識したコンパクトで丈夫な稲づくり
 令和8年産米の収量向上及びコシヒカリ1等級比率90%の達成！**

1 令和7年産の作柄（収量構成要素）

	穂数	1穂籾数	m ² 籾数	登熟歩合	千粒重	作柄（収量）
早生 （こしいぶき）	やや少	並	やや少～並	やや不良～並	並	やや不良～並 （535kg/10a）
中生 （コシヒカリ）	やや少～並	並～やや多	並	並	並	並 （515kg/10a）
晩生 （新之助）	やや少	やや多	並	並～やや良	並～やや大	並～やや良 （550kg/10a）

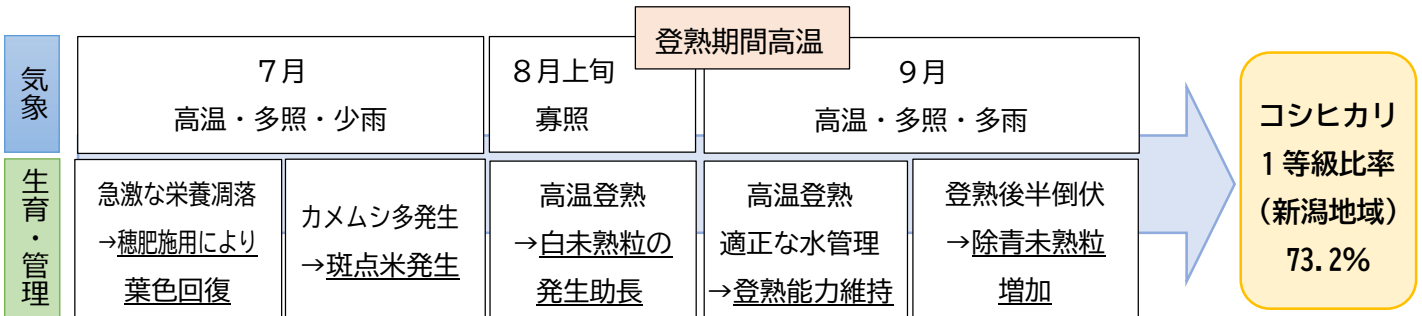
2 作柄（収量）に影響を及ぼした要因

移植直後の強風や分けつ初期の低温により、初期生育はやや不良。ワキの影響もあり、茎数が少なめに推移しました。6月中旬～7月の高温多照少雨により、葉色は急低下しましたが、適正な穂肥施用や水管理及び8月の降雨により後期栄養が維持された結果、平年並みの収量となりました。



3 品質に影響を及ぼした要因

令和7年産の1等級比率は11月末時点で73.2%となり、平年並みの品質が確保されました。主な格落ち要因は、1位「除青未熟」、2位「心白粒」、3位「背白」でした。一部地域では、カメムシによる斑点米の発生が多くなりました。

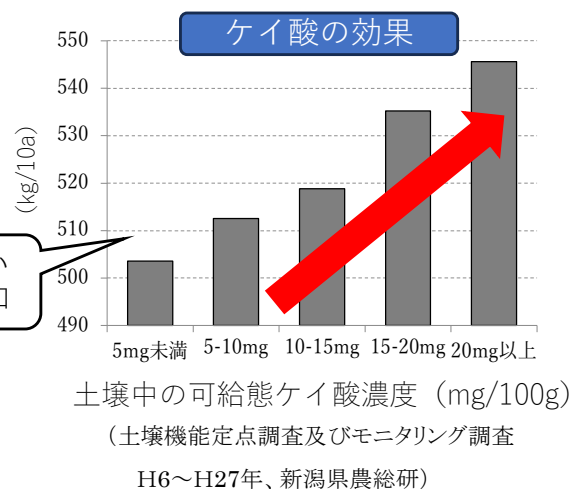


令和8年産米の収量、品質の安定確保に向けた管理 ～気候変動を意識したコンパクトで丈夫な稲づくり～

新潟農業普及指導センター

1. 土づくりによる稲体強化

- ◎ 土づくり資材（特にケイ酸資材）や堆肥の施用
- 15cmの作土深で十分な作土を確保

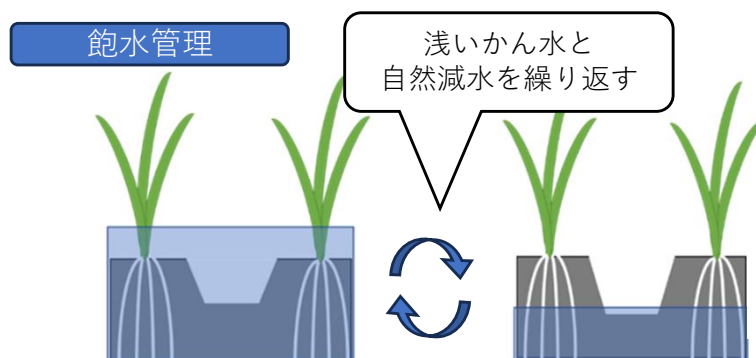


2. 初期生育の確保

- べんとう肥を施用し好天日に浅植えで田植え
- ◎ 田植え後の適正な水管理によりワキの発生を抑制し、早期に良質茎を確保
- 早めに茎数を確認し、目標穂数の7割の茎数で中干し開始

3. 後期栄養対策

- 生育診断に基づく適正な穂肥施用
- ◎ 高温時は出穂期3日前までに追加穂肥を実施
- 落水期は出穂後25日以降とし、高温登熟年は出穂後30日まで飽水管理を継続



4. 適期収穫

- 適切な収穫作業計画を策定し、籾の黄化率に基づいて適期に収穫
- ◎ 高温時は積算温度を50℃程度早め、籾黄化率80～85%をめやすに収穫開始
- 丁寧な乾燥・調製（1.9mm選別や色彩選別機の有効活用）



目標収量の確保、1等級比率90%の達成！